

大雪による農林水産被害の発生状況について

＜過去 10 年間の発生状況（被害額 1 億円超）＞

近年、大雪によるパイプハウスの倒壊や果樹の枝折れなど、総被害額が 1 億円を超える大規模な被害が 4 件発生

年 度（発生年月）	総被害額
令和 3 年度 (R3.12.25～)	336百万円
令和 2 年度 (R2.12.14～)	2,007百万円
平成 2 9 年度 (H30.1.24～)	271百万円
平成 2 8 年度 (H29.1.11～)	1,077百万円

冬季を前に雪害対策の準備をしましょう。

【農業用施設への被害回避】

- (1) おうとうやぶどうの雨よけ施設では、雨樋部（谷部）の下に補助支柱を追加し補強する。雪が多い地域では、ハウスバンドや防鳥ネットは外すなど着雪を少なくする。
- (2) ぶどう等の棚は、降雪前に点検を行い、支線が緩んでいる場合は締め直しをする。棚が下がっている場所や支柱が少ない場所には支柱を追加する。
- (3) パイプハウス等では、積雪の荷重に対する耐久性が劣るため、支柱や補強アーチパイプを追加するなど補強する。冬期間栽培しないハウスは被覆資材を除去する。

【果樹等の樹体への被害回避】

- (1) 立ち木栽培では、枝折れを防ぐため、主枝等の大枝に支柱を設置する。
- (2) 樹体への着雪を少なくし、雪下ろし作業を効率的に実施するため、混みあっている部分の不要な枝や徒長枝を間引く「粗剪定」を実施する。
- (3) 苗木や若木は、支柱を立て、横枝もまとめて幹をしっかりと結束する。

【畜産への被害回避】

- (1) 輸送事情等の悪化により給与飼料や燃料の補給が滞る場合に備え、購入飼料や燃料等は一定量備蓄しておく。